

集落（シマ）を豊かにする奄美らしさを活かした持続的な観光戦略の提案

鹿児島大学法文学部3年・森崎 百萌

受入企業名 : 日本エアコミューター株式会社

与えられた課題 : JALグループが自治体と連携し取り組む地域活性化プランを検討し、レポートにまとめて発表する。

インターンシップで研究した問題点+改善点

問題点

- ①観光関連産業や観光客と地域住民の理解の違い
- ②観光関連産業の適応性の低さ
- ③シマが観光として変化してしまう(島唄、自然)



改善点

フォト×マイル

「シマ特有」と認められる、観光客も一緒になれる
コミュニティの充実した
適切な観光マネジメントの実施を行う

インターンシップ後の提案

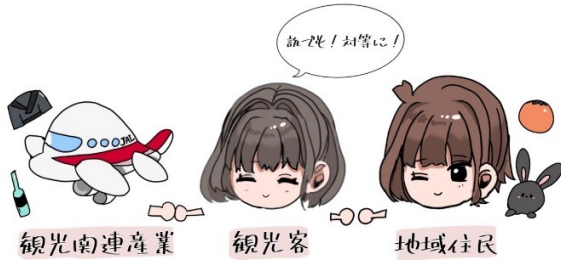
これからの観光に求められること

観光客と観光地の関係が対等で持続的な関係である。

- ・レスポンシブル・ツーリズム: 責任ある観光
- ・アクセシブル・ツーリズム : 誰もが旅に行ける社会を構築すること



発信力という強み



「旅行者と地域住民双方の理解、各地域において中期的な視点に立った適切な観光マネジメントの実施が不可欠」である。

①JSTS-D構造の取り入れ

地域が観光マネジメントを実施するための指針として、経済、文化環境といった側面から観光の持続性をモニタリングするための指標

②コミュニティ放送局

地元に着したコミュニティ放送局である「奄美FM」の可能性

③奄美らしさを世界へ!

「コミュニティ」という奄美らしさを世界に認めてもらい、「グリーン・デスティネーションズ」世界の持続可能な観光地トップ100に選定してもらおう。

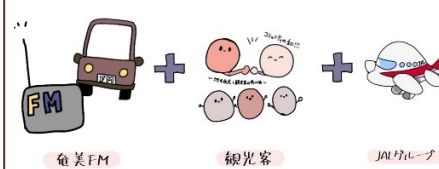
JSTS-D構造



- ・行政が主体的になって民間企業や住民組織と長期的な視点で主体的に連携し、組織化し、推進していくこと。
- ・連携するところは、地域に根差した事業者である必要がある。

観光関連産業の
一体化

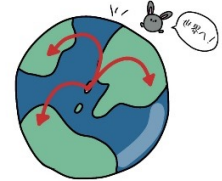
コミュニティ放送局の活用



災害時も住民の方にとって大変重要な存在になっていたというお話を聞き、コミュニティ放送局が地域により密着していた。この「放送局」なら、観光客もシマ特有のコミュニティに参入できるのではないか。

奄美FM × 観光客
× JALグループ

奄美の可能性

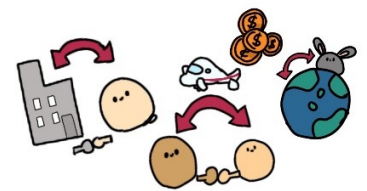


グリーン・デスティネーションズ「世界の持続可能な観光地トップ100」に、「シマ独自の地域に密着したコミュニティ、文化の推進」という評価基準でランクインさせ、世界に認めよう。

持続的な観光へ

三つの施策がもたらす波及効果

- ①人と組織の持続性 : 人と組織がつながるため、持続性がある。
 - ②観光客の持続性 : コミュニティの人に会うために来るため持続性がある。
 - ③地域文化の持続性 : シマ独自の文化、コミュニティが認められるため、持続性がある。
 - ④経済の持続性 : 観光客がリピートするため、持続する。
- 従って、持続可能な観光が成り立つといえる。



持続可能な観光

シマ独自のコミュニティの可能性

インターンシップを通じて「持続的な観光」の重要性、そしてそのためには観光客、地域住民、観光関連産業の一体化が必要であるということ学んだ。観光が発展するにつれて、地域というものが観光に染まってしまい地域性と観光を両立するのが難しくなる。

しかしながら、シマ独自のものを観光客に認めてもらうことで観光客と受け入れ側が対等な立場になると、持続可能な観光ができるのではないかと考える。